

# きれいな砂浜に



大人の手のひらにすっぽりと収まるサイズの子ガメ。ゴミや流木、車のタイヤの跡があると、前に進めません。



陸上では、子ガメを“餌”として狙っている鳥やタヌキなどに襲われてしまうことも。

アカウミガメにとって、砂浜のゴミや流木、車のタイヤ跡などは大敵です。新富町では、毎年5月と8月に「富田浜清掃大作戦」を実施し、集まってくれたたくさんの方と一緒に、砂浜をきれいにしています。その他にも、浜を散歩される方たちが、普段からゴミ拾いをしてくださっています。皆様のご協力で、「アカウミガメの産卵地・富田浜」が維持できています。



## アカウミガメの上陸頭数



上の表は、近年のアカウミガメの上陸・産卵の状況です。富田浜は、宮崎県全体の2～3割を占めていることがわかります。

※平成24、25年度は、全国的にウミガメの上陸頭数、産卵回数共に多い年で、平成26年度が減少したわけではないようです。



ウミガメは、約2億年前の湿地に生息していたカメの先祖が、進化を繰り返して海に生活の場を広げたことで誕生したと言われています。手足や首を甲羅にひっこめることができなくなる代わりに、素晴らしい遊泳能力を手に入れました。

現在生き残っているウミガメは7～8種類。そのうち、日本近海に現れるのは、アカウミガメ、アオウミガメ、タイマイ、ヒメウミガメ及びオサガメの5種類です。その中で、富田浜にやってくるのはアカウミガメ。甲羅の長さが65～100cmもあり、その名のとおり赤茶色をしています。



## アカウミガメを守りたい



卵を産卵中のアカウミガメ。産卵日を記入した棒を立て、目印にします。



台風等の荒天で砂に埋もれてしまったふ化場を修復する根井さん(右)と、数年前から会員として活動している岩切通(いわきりとおる)さん(左)。

富田浜で、長年にわたりアカウミガメの産卵や海岸保護に取り組んでいる人たちがいます。宮崎県野生動物研究会新富班の皆さんです。現在の会員数は8名。産卵時期になると、産卵場所や卵の量、上陸頭数等を毎日パトロールして記録。さらに、産卵された卵を、海水が侵食する可能性の低い「ふ化場」に移動し、産卵までの約50～80日間保護します。

根井武俊さんは、その「ふ化場」の生みの親です。約10年前、野生動物研究会の会員として活動を始めた根井さんは、人や動物により卵が掘り返される事案が続いたため、卵を守るための「ふ化場」を廃材で手作りしました。以来、産卵からふ化までを、他の会員と協力しながら見守り続けています。



宮崎県野生動物研究会  
新富班 根井武俊さん

富田浜一帯は、「アカウミガメ及びその産卵地」として、昭和55年に宮崎県の天然記念物に指定されました。

5月から10月までの産卵・ふ化シーズンには、野生動物研究会の会員の方による見回りと保護活動、ボランティアの皆さんによる砂浜の清掃活動など、アカウミガメとその産卵地を守るための取組が行われています。

# アカウミガメの帰る場所

